



子どもたちに寄り添って！

特別支援教育研修会開催

研修会レジュメ

- 1 特別支援教育とは
- 2 特別支援教育支援員の役割
- 3 校内での連携と共通理解
 - ①学校体制として
 - ②学級担任教師と
 - ③個人情報の保護
- 4 子どもとの関わり方
 - ◇まずは、子どもとの「信頼関係」を築くことが基本
 - ◇子どもの言動には必ず理由がある。「なぜ」そのような言動をするのか？」その背景を考えることから始まる
 - ①発達の段階に応じた支援
 - ②他の子どもと比べない
 - ③援助／介助から自立へ
 - ④情報の受け取り方の得意さを活かす
 - ⑤自己肯定感の維持と向上
- 5 種類別ごとのかかわりのポイント

ある学校の給食後のこと

食事に時間がかかったため遅く食器を持ってきた子に調理員さんが「がんばったね。おいしかった？」と声をかけました。子どもは笑顔で「うん。」
「遅かったね。どうしたの？」と声をかけていたらその子は？・・・自己肯定感が低い子は、最初の「遅かったね」に反応してしまいます。



5月15日(水)に、支援員対象の特別支援教育に関する研修

会が支援員11名と担任2名参加のもと行われました。はじめに、渡辺教育長より、「学校では困り感をもっている子がいる。マイナス面に目が向きがちだが、良さや個性に目を向けて伸ばしていくことが大切。支援員さんがいるからこそ担任がやっていける。生活支援や学習支援を行ってくださっている支援員さんは縁の下の力持ち的存在であり、学校にとってはなくてはならない存在である。子どもたちが快適な生活を送ることが私たちの願いです。」というお話がありました。

講義は、ふじざくら支援学校の石井めぐみ先生、権正邦子先生により、左のレジュメに沿ってお話していただきました。

～*～*～*～参加者の感想(一部)～*～*～*～*～*～*

・「子どもの行動一つひとつに理由がある」のお話で、表面だけを見がちですが、“どういう理由で”という背景をしっかりと理解しようとする
ことで、子どものことをより理解していけるのかなと思いました。
・どの子にとっても支援が必要なことについてとても理解できました。その子の得意なことを活かして、その子に合った支援をしていくことが学べてよかったです。その子が、人との関わり合いを大切にして、

一つずつできることを増やしていければいいなと思いました。

- ・年齢や障害に応じた対応の仕方が細かく示されていて、とてもわかりやすかったです。
- ・支援を減らすためには、日常的な「観察の目」が必要。→担任との情報共有が重要。
- ・学級に入っている支援員の行動・発言に関して、「良い環境要因となる」「大人がモデル」「言葉かけが大切」だと再認識しました。
- ・「日々の支援がこれでよかったのか…」と悩むことも多々ありますが、教員の方々に話を聞いてアドバイスをいただくことができている。今日のお話にあったように「何かいいところを見つけて褒めてあげる」ことを心にとめて子どもたちに寄り添う支援、子どもたちが成長できる支援をこれからももしていけるようがんばります。

支援員の先生方だけでなく、子どもたちに関わる全ての大人(教師、支援員、職員、保護者等)が大切にしていきたいことを学ぶことができた学習会でした。